

居合道だより

令和8年1月

第234号





はじめに

福岡県剣道連盟 居合道部 会長 井手 友太

新年明けましておめでとうございます。

昨年の11月末、46年間皆から親しまれてきた大濠の福岡武道館がその役割を終え、新年1月からは千代県庁口に新築された新福岡武道館に移ることになった。

年末のこけら落とし《イベント》で我が居合道部も会員を代表して八段6名がおごそかな気持ちで公開演武に臨み居合を披露した。

大濠の旧福岡武道館には私なりに思い入れがあった。拙道場もほぼ同時期に開館したこともあるし、開館当時は三段くらいの駆け出しだったがこんな立派な武道館で居合が出来ることは大きな喜びと励みであり、心身共に引き締まる厳粛な気持ちを感じたものである。大濠武道館の歴史は私の居合道の歴史と重なっている。

武道館や道場は単に稽古をするだけの場所ではない。その独特的の空間は、中にいる者の身も心も清めてくれる凜とした静寂の空気感を醸し出す。

そんな場所で稽古をするのだから生半可な気持ちで刀を扱ってはいけない、居合をしてはいけない。ずっとそんな気持ちを抱いていた。真摯に謙虚にそしてまさに真剣にである。

長い歴史を持つ我が県の居合道部はその時々に目標を定めて活動してきた。

ある時期は全日本居合道大会で成果を上げるために一丸となって取り組み成し遂げてきたし、ここ10年近くは会員拡大を最大のテーマにして全員で初心者体験教室や地域稽古会、ホームページの充実など様々な事を実践しながらやってきた。

その成果は徐々にではあるが確実に実を結び、新しい人がたくさん入ってきて実に喜ばしいことである。

しかしその反面、失くしつつあるものも有りはしないかと危惧しているところである。

それは根本である『剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。』ということだ。

昨今の社会の多様化や各種ハラスメント防止などの人格尊重があまりにも一面的に表に覆い被さって来てはいらないだろうか。

もちろん自由、平等、人権等は現代社会では最も重要視されるべき事柄であることは当然である。

しかしながら武道とは日本古来の伝統文化である。世界中からその精神性や神祕性を求めて来る人がたくさんいるし、始めた動機は様々でも続けていくうちにそのことに気付く人もたくさんいる。単に技の習得向上、健康維持や楽しみを求めるだけではなく、一人の人間としての成長を目指す。それこそが真の目的ではないのか。

スポーツや娯楽とは明らかに一線を画すべきことがあるはずである。

圧倒的な上下関係は論外だが画一的な平等は伝統文化の世界にはなじまない。

道場では師弟関係、上下関係をも含めた礼節、互いを敬う心、良識等はなくてはならないものだし、それらを教え、共に学んでいくのは指導者の大きな責務ではないだろうか。

本来あるべき姿の日本の伝統文化を繋いでいく。時代は変わっても変わってはいけないものがある。

技を伝えるためには精神こそ伝えるべきではないのか、それが『道を学ぶ』ではないだろうか。

新しい武道館で修業出来るこの年、心機一転原点に還る心を持ち、各々の居合道の新たな歴史を新武道館とともに創って行って欲しいと願うばかりである。

会員皆様が新たな飛躍の年になりますように、心よりお祈り申し上げます。

1・2月の予定・編集後記

令和8年1月11日	福岡県居合道部初稽古会	福剣連	福岡市総合体育館武道場
1月25日	地域稽古会	居合道部	田川

編集後記

あっという間に1年が過ぎ、2025年は過ぎていった。

肅々と稽古を繰り返しているようで、年々皆が成長を遂げ、少年少女も劇的に上達しています。

先日、我が同好会も少年少女と二段四段が12月の「福岡県民芸術文化祭」に参加し、演武を披露しました。地域の方々からお声がけをいただき、なお一層頑張らねばと心新たに午年の新年を迎えます。

織田信長の猛将・森長可の愛馬「百段」は、天正10年（1582年）2月の織田軍による美濃金山城（岐阜県多治見市）攻略戦で金山城の急峻な石段を百段駆け上がり、降伏を促し、かけ降りるほどの脚力で名付けられました。

主君信長も絶賛した神馬は、戦場を駆け抜け、武将の名声を不動のものにしたそうです。

今年は丙午の年で、丙午は十干の「丙」（陽の火、太陽のような明るい炎）と十二支の「午」（火の気、真夏の正午）が重なる組み合わせで、六十年に一度巡る特別な年です。火のエネルギーが二重に強まり、情熱・活力・変化が起きやすいとされます。福岡武道館も新しくなり、ますます居合道人口も増えていく事を期待しながら大きく名馬「百段」の如く跳躍し駆け出しましょう。

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第234号 令和8年1月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL : <http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社FEW